

留学報告書

磯野 文香

2019年6月

カリフォルニア大学バークレー校に留学している磯野と申します。PhD 課程の4年目後半にあたる2019年の1月から6月までの状況を報告させていただきます。

1 研究

前回のレポートでは学会に向けてペーパーを一本投稿したことについて述べましたが、無事アクセプトされて、5月2週目にCLEO (Laser Science to Photonic Applications) という学会で口頭発表をしました。「Update on BELLA Center's Free-Electron Laser driven by a Laser-Plasma Accelerator」というタイトルで、プロジェクトグループを代表してグループの進捗を発表しました。プロジェクトリーダーや他のポスドクの研究結果と一緒にまとめて世界各国から来ている研究者の前で口頭発表をおこなうのは大変恐れ多いものでしたが、入念に準備したおかげかなんとか無事に発表を終わらせることができました。もともと人前で話すのが苦手ですが、研究者としてうまくやっていくには発表のスキル、コミュニケーション能力も不可欠なのだ改めて実感しました。

学会は一週間にわたり、昨年 Chirped Pulse Amplification (CPA) という技術の開発でノーベル賞物理学賞したジュラルル・ムル氏とドナ・ストリックランド氏による招待講演や、レーザーに関する商品を開発している世界各国の会社による展示会も開かれ、内容が盛りだくさんの学会でした。今までレーザーの学会に参加したことがなかったので、レーザー分野でどのような研究が今注目されているかを知る良いきっかけとなりました。

学会以外での大きな出来事としては、私の指導教員がバークレーを去ってドイツに行ってしまいました。彼はローレンスバークレー国立研究所の円形加速器を除く加速技術 & 応用物理部門のヘッドでしたが、ドイツではバークレーよりも大規模の DESY という電子加速器研究所で加速器部門のヘッドとなり、600人を取り仕切る立場になります。ライバルの研究所にヘッドハントされたということもあり、残念ながら指導教員を代えなければならなくなりました。日本ではこのようなことは少ないようですが、アメリカでは教授が大学や研究所を移ることはよくあることのようにです。現行の研究プロジェクトは彼の後継者の下で継続される予定なので、幸い私の博士研究に大きな影響はありません。しかし彼の下で研究をするためにバークレーに来たので少し複雑な心境にいます。

2 私生活

バークレーで博士課程に入ってからはずっとバドミントンを続けていましたが、今学期はイラン人の友達に誘われて空手を始めてみました。日本には世界に誇る様々な武道がありますが、まさかアメリカにきて生まれて始めて日本武道に触れることになるうとは思いませんでした。

また最近では日本食が恋しいのか、ラーメン屋に行く機会が多くなりました。サンフランシスコのラーメンは値段が高いですが、いろいろなところでそれなりのものを食べることができます。バークレーやサンフランシスコには一風堂がありますが、ミシュラン一つ星の蔦もサンフランシスコに進出予定です。またラーメンではありませんが、バークレーの隣町オークランドには新しく蕎麦屋さんができ、十割そばをいただくことができます。

3 最後に

改めて、留学を支援してくださっている船井情報科学振興財団の皆様にお礼申し上げます。博士課程も後半に差し掛かって焦りを感じることもありますが、終わりを視野に入れながら研究成果をさらに出していけたらと思います。



バークレー国立研究所のシンクロトロン。バークレーはアーネスト・ローレンスがサイクロトロンを発明したところで有名。